



なぜあいさつは大切なのか？ その2

【自分で考えるためのエピソード1】

パナソニック（当時はナショナル）は、電機・電器製品を製作する日本の代表的な会社の一つです。テレビのCMで、みなさんも会社の名前を聞いたことがあると思います。

以前、パナソニックの入社試験では、こんなことを行っていたそうです。高校入試と同じように、入社試験にも面接試験があります。面接会場の部屋の前で、数人のグループごとに、並んだ椅子に座って待っています。すると突然、会社の人が出て来て、「急に面接場所が変更になりました。お手数ですが、新しい部屋にご案内しますので、後についてきてください」と言います。当然、受験生たちは、黙ってその人の後について行って、新しい部屋の前に並べられた椅子に順番に座っていきます。実は、この面接場所の変更が、試験だったのです。

日本を代表する大企業の入社試験を受ける人たちは、ほとんどの受験生が、質問されることを予想して、どう答えるか、時間をかけて練習しています。自分の学校の先輩たちからも、過去にどんな質問をされたか情報を仕入れています。面接官が感心させられるような立派な受け答えをする人も少なくないそうです。しかし、この面接でどんなにすばらしい答えを言っても、合格できないのです。面接場所が変更になって、案内してくれた人に「ありがとうございました」と言えなかった人は、すでに不合格になっていたのです。

県新人体育大会 水泳競技

9月4日（土）

100m女子平泳ぎ	3位	中田 成海
200m女子平泳ぎ	4位	中田 成海

【自分で考えるためのエピソード2】

『PHP』という冊子の令和元年8月号に、「中高生のPHP作文甲子園」で審査員特別賞を受賞した、広島市の安田女子高等学校2年生（当時）丹下凜々（たんげりり）さんの作文が掲載されていました。「思いというものは何かで表わさないと人に届かないんだ」という言葉に共感しました。なぜあいさつをするのか？なぜあいさつは大切だと言われているのか？この作文を参考に、みなさんも、あいさつについて自分なりに考えてみてください。

「挨拶っていうのは言葉じゃなくていろんな思いの代名詞なんだよ」毎朝挨拶をするたびに思い出す言葉だ。私は小さいころから挨拶が苦手だった。「おはようございます」、「こんにちは」こんなたった一言が出てこない。そんな自分も情けない。

ある日、夏休みの終わりに盆踊りに行った。一緒に来ていた友達がリンゴ飴屋さんの前で止まった。友達がリンゴ飴を食べたいと言うので私も買うことにした。優しくなおばさんが小さいサイズのリンゴ飴を二人分渡してくれた。横にいた友達は元気よく、「ありがとうございます」と言って受け取った。

私もおじぎはしたものの、やはりお礼の言葉言うことはできずにいると友達が、「ちゃんとお礼を言わないとだめだよ」言った。私は恥ずかしい気持ちと情けない気持ちが入り混じって、涙がこぼれそうになるのをじっとこらえていた。するとそれを見ていたさっきのおばさんは、「大丈夫。おじぎも気持ちを伝える立派な代名詞だから」と言った。そしておばさんはこう続けた。「おじぎとか言葉っていうのは自分の思いの代わりに役割をしているんだ。だからありがとうという思いがあれば伝わるものなんだよ」と言ってくれた。そのあと私は勇気を振り絞っておばさんにお礼を伝えた。

おばさんは焦らなくていいよという思いを込めて話してくれたが、私はあの言葉を聞いてから、思いというものは何かで表わさないと人に届かないんだと再認識した。だから私は人々が作り出した「言葉」という媒体を最大限生かしたいと思う。そして、いろいろな人と言葉という思いでつながっていききたい